

# 「県市町、一緒に進める」

震災がれき  
広域処理 早期実現に意欲

震災がれきの広域処理について、鈴木英敬知事は十二日の定例記者会見で「一日も早く、ということでは変わりはない」と早期実現に意欲を示した上で、「市町の意思決定、住民への説明があって初めて決められる。これまで通り、県は市と町と一緒に進めていく」と述べた。

最終処分場の確保については、「この場でオープンにできることはないが、着実に進めている」と述べ、県も責任を果たすと強調。「普通の日常ごみと混ぜて焼却するため、『今回だけ

この処分場です』という明した。日沖靖いなべ市長が、県

が同市での受け入れにブレイキをかけたとしている点では、「市長会、町村会との合意やガイドライン策定について説明し、時期を合わせて一緒にやってみようと言ってきた。それをブレイキと言うなら、ブレイキかもしれない」と語った。